

わたしが生まれた理由^{わけ}

何億という時を越え^こ

無数のいのちを乗せながら わたしは生まれた
なぜ 自分を守ろうとするのか

どうして 目を逸らそうとするのか

「別にわたしには関係ないよ。」

そうやって一人の友を見過ごした

自分の中にある心の悪が

人と人を隔て^{へだ}て 見えない線をひいてゆく

境目なんてつくらずに

大地を踏みしめる 本当の強さで

駆けぬげよ その優しさで

ゆがみのない天のように広がるまで

この広いぬくもりの上

大きな地球の小さな種から わたしは生まれた

なぜ 自分を見失っているのか

どうして 「うん。」としか言えないのか

「あなたもそう思っているでしょ。」

友から吹く風に惑わされる小さな若葉 揺らぐ幹

わたしだけの緑を光らせたいのに

森の色で塗られてゆく

一枚一枚の葉に責任というエネルギーを担って

一本の木として考え続ける

わたしという幼い幹が 群れを拒む^{こぼ}勇氣をもち

一本のわたしがあると言えるまで

暗く静かな夜

一つの問いから わたしは生まれた

なぜ みんな同じではないのか

どうして わたしはこんなに弱いのか

「僕がやるから君はいいよ。」

うつむいてわたしはつぶやいた

それは優しさ それとも：

自分勝手はしない 嘲笑うこともしない

わたしに優越という水を浴びせないで

わたしは消さない 臙脂の炎

いつか丸く優しい夕焼けになり

美しさを分かち合えるまで

わたしが生まれた理由は

わたしの思いが

わたしたちの声となる

一つの世界

つつましさと明るさとで満ち満ちる

無二の世界



県内中学校三年生の作品